

# Twenty Years with the Public Health Intervention Wheel: Evidence for Practice

MARJORIE A. SCHAFFER, PHD, PHN, RN

PROFESSOR OF NURSING EMERITA, BETHEL UNIVERSITY

6TH INTERNATIONAL CONFERENCE OF GLOBAL NETWORK OF PUBLIC  
HEALTH NURSING – JANUARY 2022



「公衆衛生活動の輪 20年の軌跡：実践のエビデンス」と題したウェビナープレゼンテーションにご参加いただき、ありがとうございます。

私は、ミネソタ州セントポールにあるベテル大学看護学部名誉教授、マージョリー・シャフアーです。

私は、尊敬する保健師の仲間とともに、世界中の保健師や学生に「公衆衛生活動の輪（以下PHIホイール）」を提供することができました。

# Disclosure

6<sup>th</sup> International Conference of Global Network of Public Health Nursing  
COI Disclosure

- ▶ Marjorie A. Schaffer, PhD, PHN, RN
- ▶ Professor of Nursing Emerita, Bethel University, St. Paul, MN USA

I have no financial conflicts of interest to disclose concerning the presentation.

## Acknowledgements

### ▶ Co-authors

- ▶ Susan Strohschein, DNP, PHN, RN, PHCNS-BC
- ▶ Kari Glavin, PhD, PHN, RN

### ▶ Minnesota Department of Health

- ▶ Julia Ashley, MA, PHN
- ▶ Kristin Erickson, MSN, RN, APHN-BC
- ▶ Allie Hawley March, MPH

このウェビナーの発表に招待してくださった企画委員会の皆様には感謝します。特に共著者のスーザン・ストローシャイン氏とカリ・グラヴィン氏に感謝します。

スーは、リンダ・オルソン・ケラーとともに、ミネソタ州保健局のコンサルタントとして、PHIホイールの第1版の開発を主導しました。

カリは、ノルウェーの教育と実践の場でPHIホイールの第1版の採用を主導しました。公衆衛生看護実践の指針としてのホイールに対する彼女の熱意と情熱は、私たち全員にインスピレーションを与えてくれます。

ミネソタ州保健局のジュリア・アシュリー、クリスティン・エリクソン、アリー・ホーリー・マーチは、PHIホイールのエビデンス更新のために、コンテンツのレビューとフォーマットの専門知識を提供してくれました。

## Objectives

- ▶ Review the origins of the Public Health Intervention Framework.
- ▶ Explain major components of the Public Health Intervention Wheel: 3 levels of practice, 5 colored wedges, 17 interventions.
- ▶ Summarize an example of PHI Wheel dissemination and adoption in Norway.
- ▶ Apply the interventions of the PHI Wheel to responding to the COVID-19 pandemic.

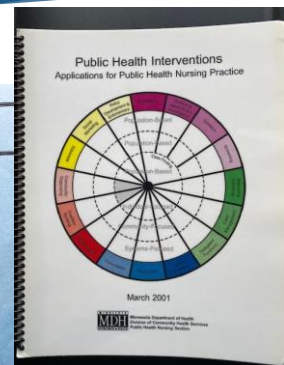
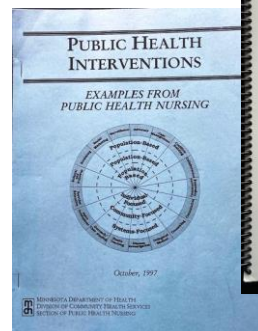
このウェビナーに参加していただくことで、これらの目的を達成することにつながります。

- PHIホイールの枠組みの成り立ちを確認する。
- PHIホイールの主要な構成要素を説明する：実践の3つのレベル、5色の分類枠、17の介入。
- ノルウェーにおけるPHIホイールの普及と採用の事例を要約する。
- PHIホイールの介入策をCOVID-19の流行への対応に適用する。

## Public Health Nursing Intervention Wheel Highlights

- ▶ Late 1990s, developed by PHN consultants at Minnesota Department of Health
- ▶ Project led by Linda Olson Keller and Susan Strohschein
- ▶ Early 2000s, adopted by PHNs and educators

Interventions are actions taken on behalf of communities, systems, individuals, and families to improve or protect health status.



このスライドと次のスライドは、過去20年間にパブリック・ヘルス・インターベーション・ホイールで起こったことの概要を示しています。詳細は後のスライドで説明します。

このプロジェクトは、リンダ・オルソン・ケラーとスー・ストロースケインが、ミネソタ州保健局の他の専門家とともに、保健師が何をしているのかを調査しようとしたことから始まりました。彼らの焦点は、公衆衛生の介入を特定することでした。これは、コミュニティ・システム・個人・家族のために、彼らの健康を改善・保護するために行われる行動です。

このスライドでは、1997年に印刷されたPHIホイールの初版と、2001年に出版されたPHIホイールの公式マニュアルを見ることができます。

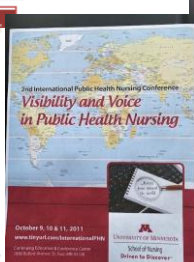
2001年の出版と同時に、全米の保健師や教育者にPHIホイールが配布・採用され、他国の公衆衛生機関からも関心が寄せられるようになりました。

# Public Health Nursing Intervention Wheel Highlights

- ▶ International nursing conferences 2009, 2011, 2013, 2016, 2019
- ▶ Articles in journals and chapters in textbooks
- ▶ Wheel evidence updated in 2019



Linda Olson Keller  
Oslo, Norway 2009



2001年に発表されて以来、公衆衛生看護の国際会議で「パブリック・ヘルス・インターベションホイール」が紹介されてきました。まず、2009年にディアコノバ大学で開催された第1回公衆衛生看護国際会議でリンダ・オルソン・ケラーが「PHIホイール」について基調講演を行いました。

2009年にディアコノバ大学で開催された第1回国際公衆衛生看護会議でリンダ・オルソン・ケラーが基調講演を行ったのを皮切りに、現在では公衆衛生看護のグローバルネットワークとなっている以下の各会議でPHIホイールが紹介されています。

- 2011年：ミネソタ州セントポール
- 2013年：アイルランド・ゴールウェイ
- 2016年：デンマーク・ビルン
- 2019年にケニアのナイロビ

そして今回、2022年、日本、大阪で開催されます。

## The Public Health Intervention Wheel: A Framework for Practice

- ▶ Explains what public health nurses do
- ▶ Practice-based and evidence-supported
- ▶ Population-based
- ▶ Three practice levels – systems, community, individual/family
- ▶ 17 interventions



このスライドは、新しいエビデンスに基づいて更新された「PHIホイール」の図を示しています。17の介入策と3つの実践レベルという構造は変わっていませんが、新しいエビデンスに基づいて、介入策の定義や例、基本的なステップなどが改訂されています。

- ホイールは、保健師の仕事を説明するものです。
- それは、実践に基づくものであり、エビデンスに裏付けられたものです。
- すべての介入は、ポピュレーションベースで行われます。つまり、介入は、ポピュレーションの健康を改善することを目的としています。
- 介入は、ポピュレーションの健康を改善するために、システムの変化、コミュニティの変化、個人や家族の変化という3つのレベルの変化を目標とします。

# Framework Assumptions

- Focuses on entire populations
- Grounded in an assessment of community health
- Considers broad determinants of health
- Emphasizes health promotion and prevention
- Intervenes at multiple levels



ホイールはポピュレーション全体を対象としているという前提に加え、フレームワークの基礎となる4つの前提があります。

それは以下の通りです。

- 介入策は、地域社会の健康状態のアセスメントに基づいている。
- 収入、社会的地位、住居、栄養、社会的支援ネットワーク、個人の健康習慣と対処スキル、雇用と労働条件、近隣の安全、教育、物理的・社会的環境、子どもの健全な発育、医療サービス、生物学と遺伝的素養、文化、ジェンダーなど、健康を決定または予防する要因である健康の広範な決定要因を考慮している。
- 健康増進と予防を重視した介入を行う
- 介入は、複数のレベルに到達するように調整されます。システム、コミュニティ、個人や家族の健康行動の変化に焦点を当てた介入策を組み合わせることで、最大の効果が得られる可能性があります。



## Three Levels of Practice

- ▶ **Systems-focused:** Changes organizations, policies, laws, and power structures
- ▶ **Community-focused:** Changes community norms, attitudes, awareness, practices, and behaviors
- ▶ **Individual/family-focused:** Changes knowledge, attitudes, beliefs, practices, and behaviors of individuals and families



ここでは、3つの実践レベルの定義を示しています。ポピュレーションの健康を改善するための変化に重点を置いています。

変化を求める場合、古いパターンややり方を捨てなければならないため、変化は必ずしも容易ではありません。それぞれのレベルで、よりよい健康状態につながる変化を起こすことが大切です。

- システムに焦点を当てた介入は、組織レベルでの変化を包含し、政策、法律、権力の配分方法の変化を含みます。
- コミュニティに焦点を当てた介入は、コミュニティの規範や慣習、およびコミュニティの態度、意識、行動を変えることを目的としています。
- 個人と家族に焦点を当てた介入は、個人と家族の健康に関する知識、態度、信念、行動に変化をもたらすことを目的としています。

例えば、妊娠中のアルコール使用について考えてみましょう。**システムレベル**では、保健師が、妊娠中のアルコール使用を減らすためのスクリーニングとカウンセリングについて、妊娠中の女性にアクセスするプロバイダーにサービスを提供します。その目的は、ケアシステムに影響を与えることです。**コミュニティレベル**では、保健師は、妊娠前と出産期の女性のアルコール使用を減らすことを目的とした専門部隊と会合を持ちます。この専門部隊は、酒販店やバーに配布するポスターを作成しました。**個人・家族レベル**では、保健師が高校のリプロダクティブ・ヘルスの授業で、アルコール使用が胎児の発育に与える影響を取り上げました。



ここでは、カラーの分類枠を紹介します。これらがどのように構成されているか見てみましょう。

同じ分類枠の中の介入は、しばしば一緒に行われます。ほとんどの場合、介入は3つの実践レベルすべてで行われます。ただし、いくつかの例外があります。

- 赤枠には、サーベイランス、疾病・健康調査、アウトリーチ、スクリーニング、ケース発見が含まれます。症例検索は、赤枠の中の他の4つの介入に対して個人レベルであることに注意してください。
- 緑枠には、紹介とフォローアップ、ケースマネジメント、受託業務/委任機能の3つの介入があります。
- 青枠の介入は、健康教育/保健指導、カウンセリング、コンサルテーションです。
- オレンジ枠では、3つのレベルすべてでコラボレーションが行われ、コミュニティとシステムのレベルでは、連携構築と地区組織化が行われます。
- 黄枠は、アドボカシー、ソーシャル・マーケティング、施策化・施行です。

ミネソタ州保健局からダウンロードできるマニュアルには、すべての定義と例が記載されています。また、介入の概要をまとめたプリントアウト「インターベーションホイール」も用意されています。マニュアルとハンドアウトへのリンクは、後ほどご紹介します。

## Origins of the Public Health Intervention Wheel: Practice-Based and Evidence-Supported

- ▶ Purpose of MDH project: Define the work of PHNs
- ▶ PHN consultants created an intervention matrix from a literature review
- ▶ Presented at 4 workshops for a 275 PHNs and educators in Minnesota
- ▶ Produced the first version of the Wheel
- ▶ Distributed the model across Minnesota



次のスライドでは、「PHIホイール」の開発と普及について説明します。

ミネソタ州保健局は、保健師の仕事を定義するために、このプロジェクトを実施しました。写真に写っているリンダ・オルソン・ケラーとスーザン・ストローシャインは、情熱をもって根気よくこのプロジェクトのリーダーシップをとりました。

まず、専門家は、文献をもとに介入方法のマトリックスを作成しました。ワークショップでは、専門家が保健師や教育者に、彼らが実際に行っている事例について質問しました。

ホイールの第一版は、保健師と教育者のフィードバックと介入に関する文献から作成され、ミネソタ州内の会議で配布されました。

## Origins of the Public Health Intervention Wheel: Practice-Based and Evidence-Supported

- ▶ MDH received federal grant to refine the Wheel
- ▶ 221 sources reviewed by an expert panel
- ▶ Interventions field tested in meetings with 150 PHNs in five states
- ▶ Feedback from meetings reviewed by a national panel of expert PHN practitioners and educators



連邦政府の助成金を受けて、665の論文、書籍、会議録から始まる文献の詳細なレビューを行いました。

レビューと批評の結果、221の文献が得られ、それを保健師の実務家と教育者のパネルがレビューし、さらに42人の専門家パネルが明確化と合意形成を行いました。さらに、アイオワ州、ミネソタ州、ノースダコタ州、サウスダコタ州、ウィスコンシン州の保健師を対象としたフィールドテストと、全米の保健師実務者と教育者からなる専門家パネルによる最終レビューを行いました。

このレビュープロセスが非常に厳密であったことをお分かりいただけると思います。

## Dissemination of the PHI Wheel

- ▶ Three satellite broadcasts to all 50 states and several countries
- ▶ Distributed videotapes and teaching kits to health departments and colleges and universities
- ▶ Federal grant supported five education and practice partnerships in Minnesota
  - ▶ Example: Henry Street Consortium  
<http://www.henrystreetconsortium.org/>

この最初の連邦政府による助成金で、2000年に全米50州と数カ国に3回の衛星放送を行い、「PHIホイール」の普及を支援しました。このビデオテープとティーチングキットは、保健所や大学に配布されました。

このようにPHIホイールを教育現場に普及させることに成功したことで、ミネソタ州での教育と実践のパートナーシップを支援する2回目の連邦政府助成金を得ることができました。

その一例が、現在も活動を続けているヘンリー・ストリート・コンソーシウムです。このグループは、バカロレア看護教育の革新と変革のニーズに応えることを目的としています。

## The PHI Wheel in articles and textbooks

- ▶ Three articles in Public Health Nursing (1998, 2004, 2004)
- ▶ PHI Wheel in articles on foster care, adolescent pregnancy prevention, falls case management, school nursing, nursing education, quality of life in elderly
- ▶ Articles on specific interventions (coalition building, outreach)
- ▶ In chapters or frameworks for textbooks



Betty Lia-Hoagberg, Susan Strohschein,  
Linda Olson Keller, Marjorie Schaffer

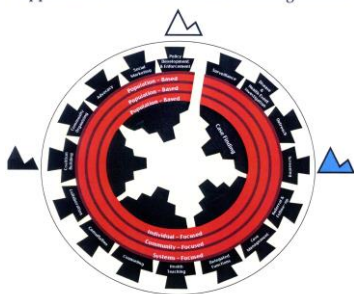
PHIホイールは、公衆衛生看護の文献や教科書によく登場します。

写真は私たちの執筆グループです。ミネソタ大学で教鞭をとっていたベティ・リア＝ホアッグバーグは、リンダ・オルソン・ケラーやスー・ストローシャインの仕事を強力にサポートしてくれました。彼女は私の学位論文の委員を務め、出版のための執筆を指導してくれました。私が研究と執筆を続けてこられたのは、彼女のおかげです。ベティは、「いつかこの作品を出版しなければならない」と言っていました。

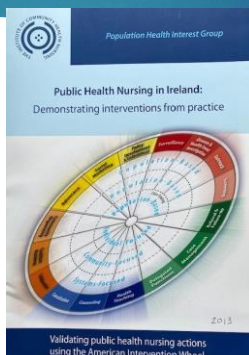
1998年と2004年に論文が発表された後、ホイールの枠組みは、公衆衛生看護の実践における特定のテーマの研究に使用され、教科書にも掲載されています。

## Adoption of the PHI Wheel: Countries and Cultures

### Public Health Interventions Applications for Public Health Nursing Practice



Shiprock Service Unit  
Community Health Services  
Public Health Nursing



Ireland



Norway

ここでは、さまざまな文化や国でPHIホイールが採用された例をご紹介します。

左はナバホ族の介入ホイールで、ナバホ族の伝統的なシンボルを使用して再設計されています。バスケットは、バランスと調和を追求するという考えを表しています。バスケットには開口部があり、良いものを入れ、悪いものを出すことができるようになっています。円を囲む4つの山のシンボルは、ナバホ族の文化に沿った生活と環境の側面を表しています。

真ん中の画像は、「アイルランドにおける公衆衛生看護」と題した文書の表紙です。アイルランドのPopulation Health Interest Groupが作成した「実践から介入の実証」と題した文書。

右側のホイールは、公衆衛生上の介入策をノルウェー語に翻訳したものです。



## Public Health Intervention Wheel in Norway Story of Collaboration

- ▶ 2005 – Presented PHI Wheel to public health nursing students and faculty at Diakonova University College
- ▶ 2008 – Kari Glavin and Lisbeth Kvarme University of Minnesota visiting professors



ノルウェーの保健師の間は、早くから「ホイール」を採用しています。

2005年、私はフルブライト奨学金を得てオスロ大学を訪れました。私は、バカロレア課程の学生に「PHIホイール」を紹介できる大学はないかと尋ね、ディアコノバ大学カレッジの保健師修了証コースの学生に「PHIホイール」を紹介しました。そこで公衆衛生看護学の教員であるカリ・グラビン氏とリスベス・クヴァルメ氏に出会いましたが、彼らはホイールが保健師の仕事をいかに説明するかについて熱心に教えてくれました。

この経験は、このスライドの写真にあるように、ノルウェーとミネソタの継続的な協力につながりました。カリとリスベスは2008年にミネソタを訪れ、ミネソタ大学の教授を訪問しながら博士号取得のための研究を続け、ホイールについてさらに学びました。



## Public Health Intervention Wheel in Norway Story of Collaboration

- ▶ 2009, 2010 – Consulted on integration of PHI Wheel into public health nursing master's curriculum
- ▶ 2009 – 1<sup>st</sup> International Conference on Public Health Nursing in Oslo
- ▶ 2015 – Collaborated with Kari Glavin on classes for PHN certificate students



Lisbeth Kvarme  
Marjorie Schaffer  
Kari Glavin

フルブライト専門家としてディアコノバ大学を訪問した際には、ホイールを公衆衛生の修士プログラムに統合するためのコンサルティングを行いました。2009年、ディアコノバの支援を受けたカリ・グラビンは、オスロで「第1回公衆衛生看護国際会議」を開催しました。

2011年には、第2回国際公衆衛生看護会議がミネソタで開催され、カリとリズベスはミネソタを訪れました。私が公衆衛生看護学を教えていたベテル大学での協力の機会を模索し、ワシントンDCで開催されたアメリカ公衆衛生協会の年次総会で私たちの研究を発表しました。

2015年には、ノルウェーに2週間滞在し、カリと共同で「PHIホイール」の授業を行いました。

## Cross Cultural Experiences



もちろん、協力には楽しみもつきものです。ここではいくつかの写真をご紹介します、授業や研究、執筆の仕事に加えて私たちが楽しんだことを知っていただきたいと思います。

ここでは、カリとリスベスがノースカヌーの漕ぎ方を習っているところや、私の家でランチを一緒に食べているところ、メリーランド州のクララ・バートン国立史跡近くの公園でカリと私が撮った写真、ノルウェーの憲法記念日である5月17日（ノルウェー語では「シッテンデ・マイ」と呼ばれています）にパレードを見たことなど、ノルウェーの観光を楽しんでいるところをご紹介します。

このように、私たちは長年にわたって協力関係を築いてきたので、良い思い出がたくさんあります。

## Norway Collaboration: Publications

- ▶ Twenty years with the public health intervention (2021)
- ▶ The public health intervention wheel in Norway (2019)
- ▶ Public health nursing interventions to promote quality of life in older adult populations (2017)
- ▶ A comparison of the cornerstones of public health nursing in Norway and the United States (2014)
- ▶ A comparison of the well child clinic services in Norway and the Nurse Family Partnership programme in the United States (2013)



このスライドは、カリと私が他の仲間ともに取り組んだ記事をまとめたものです。最初の3つの記事は、PHIホイールに特化したものです。

## Evidence Update Needed

- ▶ 1<sup>st</sup> edition published in 2001
- ▶ Policy changes and health care reform contributed to change in practice
- ▶ Rapid expansion of new evidence and emphasis on EBP
- ▶ MDH initiated evidence update



1<sup>st</sup> edition, 2001

2017年、ミネソタ州保健局は「ホイール」のエビデンス更新を開始しました。2001年の第1版の出版以来、エビデンスの追加は行われていませんでした。エビデンスが急速に拡大し、エビデンスに基づく実践が重視されるようになったため、ホイールを更新する時期が来たのです。

スーと私はこのプロジェクトを担当し、新しいエビデンスの検索と統合のプロセスを決定しました。



## Manual: Applications for Public Health Nursing Practice

- ▶ Definition
- ▶ Examples at all practice levels
- ▶ Relationships to other interventions
- ▶ Basic steps for interventions with application example
- ▶ Evidence-based practice steps
- ▶ Key points from evidence
- ▶ Wheel notes

Minnesota Department of Health. (2019). *Public health interventions: Applications for public health nursing practice* (2nd ed.).

<https://www.health.state.mn.us/communities/practice/research/phncouncil/wheel.html>

第2版では、これらのカテゴリーを17の介入項目ごとに掲載しています。

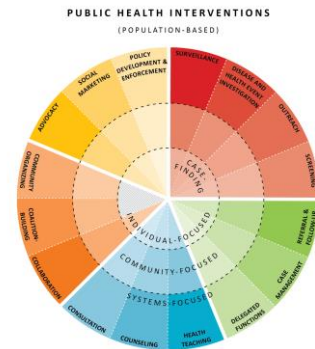
- いくつかの介入の定義は、追加のエビデンスに基づいて改訂されました。
- 同じ健康上の関心事を、その定義に特有の実践レベルで使用するように変更された例もあります。
- 他の発明との関係について、それらがどのように連携するかを説明するセクションがあります。
- 最新のエビデンスに基づいた基本的なステップを、応用例とともに紹介しています。アウトリーチの例では、クラミジアと淋病のリスクが高い人々を対象に、図書館でアウトリーチを行うための7つの基本ステップを示しています。
- 次のセクションでは、エビデンスのレベル、すなわちエビデンスの厳密さ、エビデンスの出典など、エビデンスから得られる重要なポイントをまとめています。
- 最後に、"ホイールノート"と呼ばれるセクションがあります。ホイールノートは、介入に関連する懸念、考え、課題に注意を喚起するものです。

ホイールノートのカウンセリングの例では、保健師が自分自身をカウンセラーとは考えていないという課題を取り上げています。このホイールノートでは、保健師が健康上の問題に対応する際の感情的な要素に対処する際に、カウンセリングを行うことを指摘しています。

全体として、これらのセクションは、エビデンスの量とその提示方法を合理化し、保健師にとってエビデンスがより利用しやすいものになっています。

## Application of Wheel Interventions

- ▶ 17 interventions organized into 5 wedges – red, green, orange, blue, yellow
- ▶ 3 levels of practice – systems, community, individual/family
- ▶ All interventions are population-based

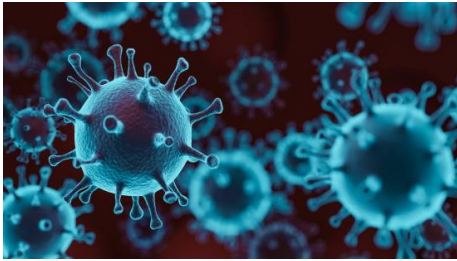


COVID-19のパンデミックに対応するために、保健師がどのようにPHIホイールを使用できるかを説明する前に、ホイールの構造を確認しておきましょう。

- ホイールの外側のリングには、色分けされた17の介入項目が配置されています。赤枠にある他の4つの介入策では、ケース発見が個人レベルで行われていることに注目してください。また、赤のオレンジ色の介入策のうち、2つの介入策（連携構築とコミュニティ・オーガナイズング）については、個人レベルがブロックされていることがわかります。
- 実践レベルでは、システムに焦点を当てた介入が外側の輪に、コミュニティに焦点を当てた介入が次の輪に、そして最後に個人に焦点を当てた介入が最も内側の輪に示されています。
- このレベルでの介入はポピュレーションに影響を与えるため、個人や家族への介入を含め、すべての介入がポピュレーションベースとみなされます。



## Wheel Application to COVID-19 Pandemic

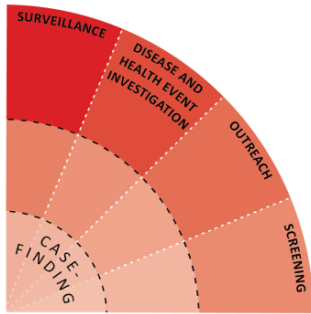


- ▶ How do Wheel interventions guide a public health response to the COVID-19 pandemic?
  - ▶ Definition
  - ▶ Application question

ここからは、保健師がCOVID-19パンデミックにどのように対応するかを理解するために、「PHIホイール」をどのように活用できるかを考えてみましょう。以下の各スライドでは、介入の簡潔な定義と、検討すべき応用問題を取り上げます。



## Application to COVID-19 pandemic: Surveillance (red wedge)



**Surveillance:** Systematically collecting data to help plan a response to a public health problem

**Application:** What is the current incidence of COVID-19 cases in your city or county for each racial and ethnic group?

赤枠の介入は、COVID-19パンデミックに極めて関連性があります。

World Health Organization 2018年のサーベイランスの定義によると、サーベイランスとは、"公衆衛生の実践の計画、実施、評価に不可欠な健康関連データの継続的で体系的な収集、分析、解釈"とあります。

サーベイランスでは、質問をします。あなたの市や郡では、人種や民族ごとに、現在どのくらいの割合でCOVID-19の症例が発生していますか？

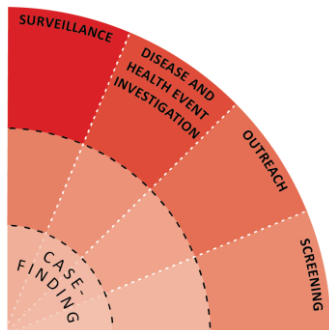
この質問に対する答えはどこで見つけることができますか？

通常、政府機関がこのデータを記録しています。米国では、米国疾病対策センター（CDC）がCOVID-19の発生率に関する最新の統計を保持しています。

発生率とは、特定の期間に集団内で病気や怪我の新しい症例が発生することを指します。

COVID-19症例の発生率を知ることは、他の赤枠の介入で取るべき行動を計画するのに役立ちます。

## Application to COVID-19 pandemic: Disease and health event investigation (red wedge)



**Disease and health event investigation:**  
Analyzing data to determine risk and how to respond to the public health threat

**Application:** What potential underlying factors contribute to differences in COVID-19 risk among races/ethnicities in your city or county?

サーベイランスによって公衆衛生問題の発生率と有病率がわかれば、次にリスクを決定し、公衆衛生上の脅威にどのように対応するかを決定することができます。

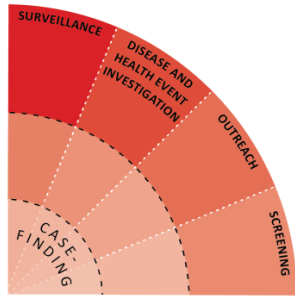
サーベイランスと疾病・健康調査の違いは、サーベイランスでは、健康問題の影響を受けている人口の割合を記録することです。疾病・健康調査では、そのデータを分析して、誰がリスクを抱えているのか、疾病や健康イベントの脅威を減らすために何ができるのかを特定します。

危険因子を特定するためには、「あなたの市や郡における人種や民族間のCOVID-19リスクの違いの原因となる潜在的な基礎因子は何か？ また、国レベルのデータがあるかもしれません。

COVID-19の原因となる潜在的なリスク要因としては、差別、医療アクセス、職業、教育、所得、貧富の差、住宅などが考えられます。どのような人が最もリスクにさらされているかがわかれば、その知識は、脅威への対応においてどの集団を重視すべきかを判断するのに役立ちます。

サーベイランスと疾病・健康事象の調査は、感染症以外にも対応できることに注意してください。例えば、心臓病や違法薬物使用の発生率やリスクなどです。

## Application to COVID-19 pandemic: Outreach (red wedge)



**Outreach:** Finding populations at risk in order to communicate with them about the risk

**Application:** Identify three outreach strategies to reach those races/ethnicities in your city or county disproportionately affected by COVID-19. What do you need to be concerned about in developing messages of risk? Where do you go for help?

[What we can do to promote health equity](#), CDC.

サーベイランスや疾病・健康調査は、アウトリーチの対象となる母集団を決定するのに役立ちます。

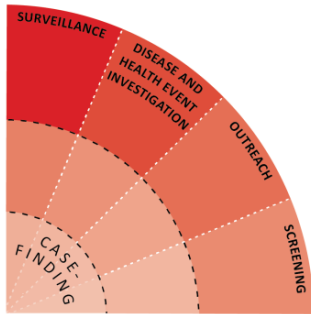
アウトリーチ活動では、対象となる人々やリスクのある人々を探し出し、問題の性質や対処法、サービスを受ける方法などの情報を提供します。

アウトリーチ活動では、「COVID-19の影響を受けている人種や民族に働きかけるための3つの戦略を考えてください」という質問があります。リスクに関するメッセージを作成する上で、どのようなことに気をつける必要がありますか？どこに助けを求めればいいのか？

対応策の一つとして、人種・民族的なマイノリティグループや市・郡の関連組織と協力して、リスクのある人々にアプローチする戦略を立てることが挙げられます。

情報源の一つとして、CDCのウェブページ「[What We Can Do to Promote Health Equity](#)」があります。

## Application to COVID-19 pandemic: Screening (red wedge)



**Screening:** Identifying individuals who have risk factors or asymptomatic disease conditions

**Application:** Which of the three screening strategies would you use: mass, targeted, or periodic? List a specific example for each.

スクリーニングは、COVID-19のパンデミックに対する公衆衛生上の対応として非常に重要です。

スクリーニングでは、認識されていない健康リスク要因を持つ人や、ポピュレーションの中で無症状の疾患状態にある人を特定します。

世界保健機関（WHO）は、スクリーニングには2つの目的があると説明しています。1) 健康リスクや病気を発見し、悪影響や病気の感染、苦痛を軽減すること、2) 予防や治療の成果を向上させること。

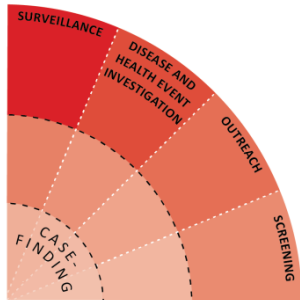
これらは、COVID-19に対応した2つの重要な目的です。

質問では、“3つのスクリーニング戦略のうち、マス、ターゲット、定期のどれを使用しますか？”とあります。

COVID-19に最も関連するスクリーニング戦略は、ポピュレーションスクリーニングとターゲットスクリーニングです。

- **マス・スクリーニング** - あなたの部署、または他の医療機関と協力して、地域の希望者全員にCOVID-19スクリーニング検査を提供する。
- **ターゲットスクリーニング** - 地域の特定の人種や民族の組織と協力して、特定のグループの人々にアプローチする。

## Application to COVID-19 pandemic: Case-finding (red wedge)



**Case-finding:** Locating individuals and families who have risk factors and connecting them with resources

**Application:** What happens to those individuals whose tests are positive for COVID-19? What happens to the data?

ケース発見は、高いリスク要因を持つ個人や家族を探し出し、リソースにつなげるものです。

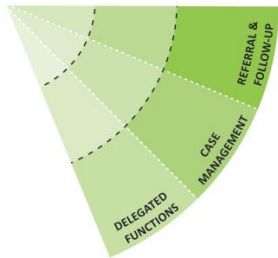
ケース発見は、個人や家族の実践レベルであることがわかります。ケース発見は、他の4つの赤枠の介入（サーベイランス、疾病・健康調査、アウトリーチ、スクリーニング）のための個人レベルの介入です。

ケース発見には、私たちのアセスメントスキルが必要です。

ここでの問題は、「COVID-19の検査で陽性となった人たちはどうなるのか？そのデータはどうなるのか？

あなたが住んでいる地域では、どのようなプロセスが行われていますか？検査結果が陽性または陰性の場合、保健師は本人や家族に次の行動をアドバイスします。米国では、検査結果は州の保健局に送られ、そのデータはCDCなどの連邦組織に伝えられます。

## Application to COVID-19 pandemic: Referral and follow-up (green wedge)



**Referral and follow-up:** Connecting people in the population with resources, and then evaluating the effectiveness of those resources in resolving the problem

**Application:** Name one culturally appropriate referral source for each of the races/ethnicities in your city or county disproportionately affected by COVID-19. How do you assure the resources are used?

次に、緑枠の介入について説明します。おそらく、パンデミックへの対応で保健師が頻繁に使用した「紹介とフォローアップ」をご覧になったことがあると思います。

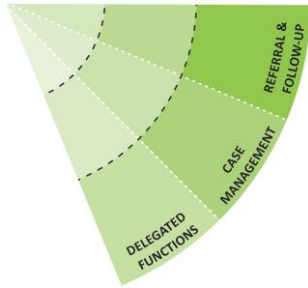
紹介とフォローアップの介入を使用する場合、人やグループをリソースにつなぎ、健康問題への対応におけるリソースの有効性を評価するためにフォローアップを行うことを確認します。

この質問では、あなたの地域でCOVID-19の影響を受けている人種／民族グループのための文化的に適切なリソースを特定し、そのリソースが利用されるようにするために何をすることが問われています。

答えは、あなたの地域の人種/民族グループと利用可能なリソースによって異なります。

フォローアップとは、リソースが使用されたかどうか、また健康問題に対応する上でリソースがどの程度効果的であったかを、後日、クライアントや組織に確認することです。

## Application to COVID-19 pandemic: Case management (green wedge)



**Case management:** Collaborating with other organizations and services to meet client needs

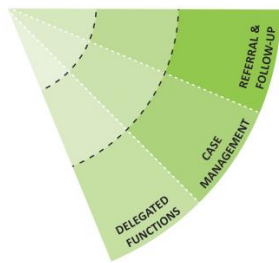
**Application:** In the city or county, who is in a position to provide case management to members of each of these targeted groups with positive COVID-19 results? What if there are no groups or organizations designated?

ケースマネジメントとは、クライアントのニーズを満たすための選択肢やサービスについて、評価、計画、促進、ケア調整、評価、アドボカシーを行う共同プロセスです。ケースマネジメントは、コミュニケーションと利用可能なリソースを用いて、安全性、ケアの質、費用対効果の高い結果を促進します。

質問：あなたが住んでいる、または働いている場所で、COVID-19の結果が良好なクライアントにケースマネジメントを提供しているのは誰ですか？ケースマネジメントは、政府の公衆衛生機関が提供していますか？あなたがCOVID-19検査で陽性となったクライアントのケースマネジメントを行っている保健師の場合、クライアントが必要なケアを受けられるように誰と協力していますか？

ケースマネジメントの重要な成果としては、クライアントのセルフケア能力の向上、資源の効率的な利用、質の高いケアの提供、ケアの断片化の減少、サービスの継続性の向上、コストの抑制などが挙げられます。

## Application to COVID-19 pandemic: Delegated functions (green wedge)



**Delegated functions:** Others may delegate activities to public health nurses (example: vaccinations), or the public health nurse may delegate to another person (example: school nursing office staff or community health workers)

**Application:** In your department, you are given the responsibility to establish a curbside COVID-19 program and provide nasal swab tests. Is this within your legal authority to do so?

受託業務/委任機能とは 1) 専門看護師が、法律で認められた医療従事者の権限の下で行う直接ケア業務、 2) 専門看護師が他の職員に委託して行う直接ケア業務。

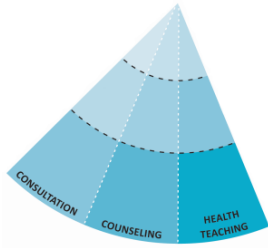
適用例では、鼻腔ぬぐい液検査を提供するためのカーブサイドCOVID-19プログラムを確立するための法的権限を検討するよう求められています。あなたの法的権限は、あなたが働いている州または国の看護業務法に依存します。

ミネソタ州では、上級実践看護師がこの責務を遂行する法的権限を持っています。保健師は、この責任を果たすためには、保健所の医療従事者に命令を認可してもらう必要があります。

保健師は、看護プロセス（評価、診断、計画、介入、評価）に特有の責任を必要としない行為を委任することができます。地域医療従事者は、鼻腔ぬぐい液を投与する訓練を受けることができます。



## Application to COVID-19 pandemic: Health teaching (blue wedge)



**Health teaching:** Sharing information through educational strategies

**Application:** What do you keep in mind while preparing health teaching strategies for individuals and families? At the community level? At the systems level?

感染症の伝播に関する保健師の知識と専門性は、健康教育/保健指導、カウンセリング、コンサルテーションという青枠の介入の基礎となります。

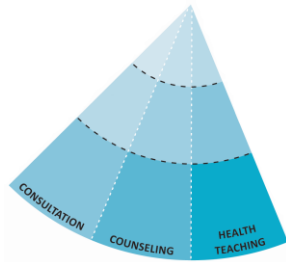
健康教育/保健指導とは、健康に関する知識、態度、行動、技能を向上させるための教育活動を通じて、情報や経験を共有することです。“

3つの実践レベルでCOVID-19についての健康教育/保健指導を行う際に、何を念頭に置くかを考えてみてください。

ここで思い出すのが、「システム」です。

- ・システムレベルでは、組織、政策や法律、権力構造に変化が起こります。マスクの義務化に関して変革を必要としているコミュニティ組織に、COVID-19に関する方針をどのように伝えますか？
- ・コミュニティレベルでは、コミュニティの規範、態度、意識、実践、行動などに変化が起こります。あなたが養護教諭だったら、社会的距離を保つために必要な行動の変化をどのように伝えますか？
- ・個人や家族のレベルでは、個人の知識、態度、信念、実践、行動に変化が起こります。コロナウイルスの感染を防ぐ安全な方法をクライアントに教えるには、どのような教育戦略が効果的だと思いますか？

## Application to COVID-19 pandemic: Counseling (blue wedge)



**Counseling:** Aiming to increase a client's capacity for self-care and coping

**Application:** You are working with single mother who is a migrant. She has two school children with different school schedules. She works nights as an essential worker in a factory. Provide an example of counseling with the mother in exploring her options for childcare.

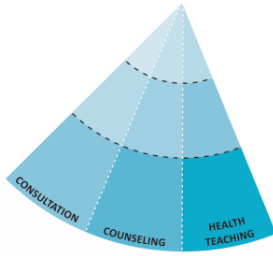
保健師は自分のことをカウンセラーだとは思っていないかもしれませんが、カウンセリングは健康教育/保健指導と相性が良いのです。

カウンセリングでは、セルフケアや対処能力の向上を目的とした、感情レベルでの対人関係の構築を行います。カウンセリングを行う際には、聴き上手になることが大切です。

適用例では、出稼ぎに来ているシングルマザーで、子供が学校に通っていて、保育園を探さなければならない場合に、どのようにカウンセリングするかを考えてもらいました。

カウンセリングでは、保健師は母親の話に注意深く耳を傾け、母親との関係を築きながら、母親が自分の選択肢を見つけられるようにサポートします。保健師は、紹介とフォローアップという「緑枠」の介入が、適切なチャイルドケアを見つけるのにも役立つと考えるかもしれません。

## Application to COVID-19 pandemic: Consultation (blue wedge)



**Consultation:** Assisting the client to find solutions to a problem through interactive problem-solving

**Application:** What other community agencies could you engage in conversation when trying to develop a resource for the woman you encountered in the counseling intervention?

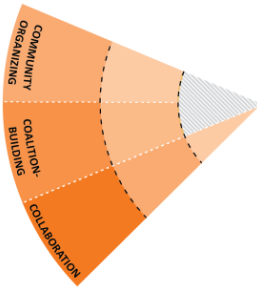
青枠の3つ目の介入はコンサルテーションです。コンサルテーションとは、対話型の問題解決を通じて、認識された問題に対する最適な解決策を生み出すための情報を求めることです。

ここで強調したいのは、「対話的」ということです。コンサルテーションは共同作業です。

適用に関する質問では、出稼ぎで2人の子供を持つシングルマザーの女性に託児所が必要であるという問題を解決するために、他にどのようなコミュニティ機関が役に立つかを尋ねています。

保健師は、託児所を提供したり、託児所のための資金を提供している他の組織を調査する必要があります。それは、非営利団体であったり、政府機関であったりします。そして、保健師は、他の組織の代表者に、経済的に余裕のない家庭のための保育の必要性を説明し、問題解決に向けて協力することができる。保健師は、顧客と地域社会のニーズに関する知識に基づいて、チャイルドケアのニーズについて相談に乗ります。

## Application to COVID-19 pandemic: Collaboration (orange wedge)



**Collaboration:** Working with clients, other professionals, community members, and organizations, to promote and protect health for a common purpose

**Application:** You are assigned to your city or county's internal COVID-19 Pandemic Response Team. What is your general responsibility?

オレンジ枠の質問は、パンデミックに対応するために保健師が他の人とどのように協力するかに焦点を当てています。オレンジ枠の介入では、「パートナーシップ」という言葉が思い浮かびます。

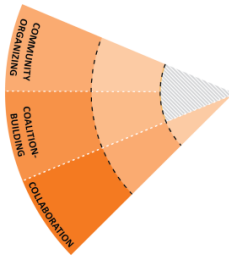
協働は、3つの実践レベルすべてで発生します。

協働とは、「相互の利益と共通の目的のために、健康を促進し保護する能力を高めること」です。協働には、情報交換、調和のとれた活動、そしてリソースの共有が含まれます。

保健師として、COVID-19対応チームのメンバーとしてどのように協働するかを考えてみてください。

協力的な対応とは、他のチームメンバーと協力して正確な情報を提供し、リソースを共有し、部門の上司に報告することです。

## Application to COVID-19 pandemic: Coalition-building (orange wedge)



**Coalition-building:** Working with alliances among organizations or population groups to address a health problem

**Application:** You're assigned to serve on a neighbor block organization as a representative of your department, to develop a response to COVID-19. What are your responsibilities?

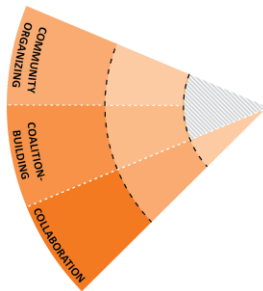
連携構築は、共通の目的のために組織やグループ間の同盟関係を促進・発展させるのに役立ちます。連合は、健康問題に取り組むために、つながりを築き、問題を解決し、地域のリーダーシップを強化します。

連携構築と次の介入である地区組織化は、コミュニティやシステムのレベルでのみ行われます。これは、連携を構築する際に、コミュニティやシステムと協働することになるため、理にかなっています。

保健師は、保健所を代表して他の組織との会合に参加する際、どのようにして連携構築に貢献するのでしょうか？

連携構築の基本的なステップは、コアグループをまとめること、潜在的なメンバーを特定して連合に参加してもらうこと、一緒にミーティングを行うこと、そのミーティングのフォローアップ、そしてCOVID-19に対応する連携行動を決定するための次のステップに進むことです。

## Application to COVID-19 pandemic: Community organizing (orange wedge)



**Community organizing:** Working with communities to respond to common problems identified by the community

**Application:** You're a team leader of PHNs providing health care assessments for infants and toddlers in a community clinic serving low-income families. You and the other PHNs learn of misinformation about COVID-19 from those parents attending, about transmission and how to protect against it. No one is sure of the source of the misinformation. What are your options?

地区組織化は、連携構築よりもインフォーマルなものです。

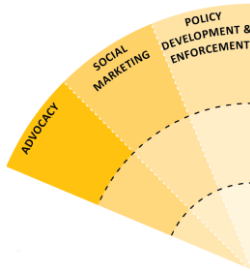
地区組織化とは、人々が集まって共通の問題や目標を特定し、資源を動員し、達成したい目的に到達するための戦略を立てて実行するプロセスである。

感染予防のためのベストプラクティスに関する意思決定の障害となる、COVID-19に関する誤った情報にどのように対応しますか？

保健師の看護師は、地域の他の医療機関や福祉サービス提供者に連絡を取り、コミュニティの組織化を促進することができる。保健師は、多くの人が同じ誤った情報を聞いていることを知ると、可能な戦略を議論するために会議を開き、可能であれば、誤った情報の出所を特定することができる。

地区組織化という介入方法は、国民皆保険制度があり、社会的利益が高い国ではあまり使われないかもしれません。例えば、ノルウェーの保健師学生は、他の介入方法と比較して、自分の経験の中で地区組織化の例をあまり認識していないことがわかりました。

## Application to COVID-19 pandemic: Advocacy (yellow wedge)



**Advocacy:** Promoting and protecting the health of individuals and communities by making their health needs known and helping them get access to health and social services

**Application:** You are part of a team deciding on COVID-19 testing sites. There are pockets of places where people live that have no public transportation or access to cars; an example is homeless encampments. What can you do?

黄枠のような介入を行うことで、パンデミックに起因する負の影響を軽減できる可能性があります。

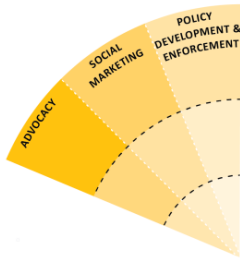
アドボカシーとは、関連するステークホルダーと協力し、医療・社会サービスへのアクセスを容易にし、主要な意思決定者に積極的に働きかけて、地域社会の健康上の成果を改善するための政策を支持・制定することによって、個人や地域社会の健康を促進・保護する行為、です。

COVID-19の検査をどこで提供するかを検討する際、保健師は、公共交通機関や自動車へのアクセスがない地域にどのように働きかければよいでしょうか？

保健師は、特定の地域に住む家族がCOVID-19検査を受ける際に遭遇する障壁を、意思決定グループの注意を喚起することでアドボカシーを行うことができます。

アドボカシーは、ケアへのアクセスに不平等を経験しているグループに公衆衛生サービスを提供する際に、非常に重要な介入です。

## Application to COVID-19 pandemic: Social marketing (yellow wedge)



**Social marketing:** Influencing health behavior change in specific target audiences

**Application:** You've been assigned as a department representative to the city or county's public information office. A local news outlet has reported that COVID-19 is "just like the flu" and will go away like the flu after this season. What can be done to counter this misinformation? What is your role?

ソーシャル・マーケティングの介入は、マーケティング分野で生まれました。公衆衛生においては、ソーシャル・マーケティングは健康行動の変化を目的としています。

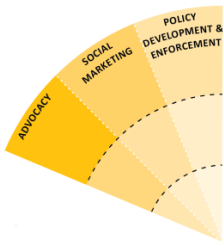
"ソーシャル・マーケティングとは、マーケティングの原理と手法を用いて、対象者の行動を変え、個人だけでなく社会にも利益をもたらすプロセスである。"

COVID-19はインフルエンザと同じで治るという誤った情報に対して、ソーシャル・マーケティングをどのように活用できるでしょうか。

その答えは、ソーシャル・マーケティングの基本的なステップを使って正確な情報を提供することです。これらのステップには、ソーシャル・マーケティング計画の目的の決定、計画に関連する環境での分析、ソーシャル・マーケティング介入の対象者の選択、目標の設定、発生する可能性のある利益と障害の特定、ポジション・ステートメントの開発、誤報に対抗するためのマーケティング戦略の開発が含まれます。



## Application to COVID-19 pandemic: Policy development and enforcement (yellow wedge)



**Policy development and enforcement:** Influencing laws, rules, regulations, and ordinances in policies that promote and protect health; public health nurses may be involved in activities that compel others to comply with laws and rules that protect health

**Application:** A government official issued a policy that everyone in public spaces must wear a mask unless under the age of two or otherwise cannot tolerate a mask for medical reasons. Your department's policy is the same but it is unclear what is meant by "anyone who has trouble breathing." You encounter a mother at her child's well child assessment who says she cannot wear a mask due to asthma. What do you do?

[Guidance for Wearing Masks](#), CDC.

施策化と施行は、政策の2つの側面、つまり政策を作ることと、政策が実行されることを確認することに焦点を当てています。確かにCOVID-19のパンデミックでは、ウイルスの拡散を抑えるために行動を義務付けるという公衆衛生上の行動があります。

“施策化は、健康問題を意思決定者の議題とし、解決策を確立し、必要な資源を決定し、法律、規則、規制、条例、政策に結実する。”

政策の施行は、これらの政策を遵守します。

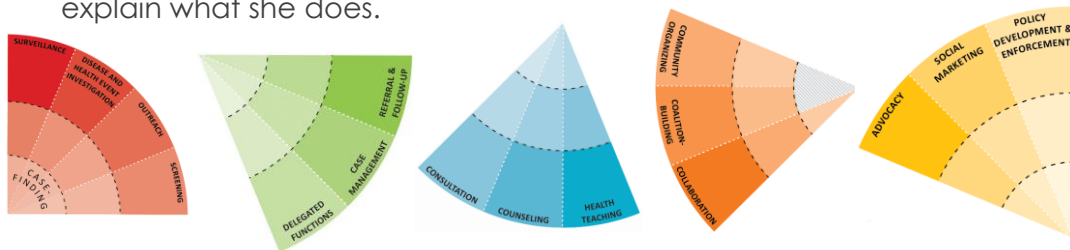
COVID-19ポリシーの課題の一つは、ルールや義務は常に変化しており、アメリカの州や国によっても大きく異なるということです。

適用に関する質問は、ポリシーの施行に焦点を当てています。2歳以上のウェルチャイルドクリニックでマスクの着用が義務付けられているときに、喘息があるのでマスクを着用できないと抗議する母親がいた場合、保健師はどうすべきでしょうか。

保健師としては、このような状況を予測し、上司に説明を求めるとともに、組織のマスク義務化やガイダンスに精通しておくことができます。米国疾病対策センターでは、マスク着用のガイダンスに関するウェブページを開設しています。

## Video: Covid Stories

- ▶ Listen to Rawan, Case Manager from Ottawa Public Health in Canada tell her story about public health work.
- ▶ As she tells her story, write down interventions from the Wheel that explain what she does.



この次のスライドでは、カナダのオタワ・パブリック・ヘルスのケースマネージャー、ラワンさんの話を紹介しています。PHIホイールにあるどのような介入が、彼女の仕事を説明しているのでしょうか？5色の分類枠それぞれの介入について考えてみましょう。

ラワン氏の役職はケース・マネージャーなので、ケース・マネジメントが彼女の介入ストーリーの一部であることはすでにわかっています。彼女は、5つの分類枠のそれぞれの介入を実施するために、時間のどのくらいの割合を費やしていると思いますか？ラワン氏のストーリーのホイールから10個の介入を特定できるかどうか確認してください。



## Goals for the Future

- ▶ Integrate the updated the Public Health Intervention Framework into PHN practice and education.
- ▶ Use the PHI Wheel to communicate to decision-makers and the public health community the contributions PHNs make to improving population health.
- ▶ Integrate new evidence on effective public health interventions into practice.



PHIホイールは、保健師が保健師の仕事の説明の際の共通言語となります。ですから、公衆衛生の同僚と共有し、看護教育で教えることが重要です。

引退したスーと私は、新しいエビデンスの探求を続けるために、新しいリーダーの登場を呼びかけています。

## PHI Wheel Manual: Download or Order

- ▶ Minnesota Department of Health. (2019). *Public health interventions: Applications for public health nursing practice (2nd ed.)*. Online: [www.health.state.mn.us/communities/practice/research/phncouncil/wheel.html](http://www.health.state.mn.us/communities/practice/research/phncouncil/wheel.html)
- ▶ Minnesota Department of Health. (2019). *Public health interventions, definitions, and practice levels* [Handout]. Online: [www.health.state.mn.us/communities/practice/research/phncouncil/wheel.html](http://www.health.state.mn.us/communities/practice/research/phncouncil/wheel.html)

## Norway Collaboration References

- ▶ Schaffer, M. A., Strohschein, S., & Glavin, K. (2021). Twenty years with the public health intervention wheel: Evidence for practice. *Public Health Nursing*, 1–7. <https://doi.org/10.1111/phn.12941>
- ▶ Glavin, K., Schaffer, M. A., & Kvarme, L. G. (2019). The public health intervention wheel in Norway. *Public Health Nursing*, 36, 819-828. <https://doi.org/10.1111/phn.12657>
- ▶ Schaffer, M. A., Kalfoss, & M., Glavin, K. (2017). Public health nursing interventions to promote quality of life in older adult populations: A systematic review. *Journal of Nursing Education and Practice*, 7(11), 92-106. doi: 10.5430/jnep.v7n11p92

## Norway Collaboration References

- ▶ Glavin, K., Schaffer, M. A., Halvorsrud, L., & Kvarme, L. G. (2014). A comparison of the cornerstones of public health nursing in Norway and the United States. *Public Health Nursing*, 31 (2): 153-66. doi: 10.1111/phn.12082
- ▶ Glavin, K. & Schaffer, M. A. (2013). A comparison of the well child clinic services in Norway and the Nurse Family Partnership programme in the United States. *Journal of Clinical Nursing*, 23, 492-503. doi:10.1111/jocn.12206
- ▶ October 2011 - A comparison of the Cornerstones of Public Health Nursing in Norway and the United States. Kari Glavin and Marjorie Schaffer presented at the American Public Health Association Annual Meeting in Washington DC
- ▶ October 2011 - A Comparison of the Cornerstones of Public Health Nursing in Norway and the United States. Kari Glavin, Liv Halvorsrud, Lisbeth Kvarme, and Marjorie Schaffer presented at the 2nd International Public Health Nursing conference in St. Paul, Minnesota

## Contact Information

Marjorie Schaffer,  
PhD, PHN, RN



Professor of Nursing Emerita,  
Bethel University, St. Paul, MN

[m-schaffer@bethel.edu](mailto:m-schaffer@bethel.edu)

Susan Strohschein,  
DNP, PHN, RN, PHCNS-BC



Retired: University of Minnesota &  
Minnesota Dept. of Health

[stroh025@umn.edu](mailto:stroh025@umn.edu)

Kari Glavin,  
PhD, PHN, RN



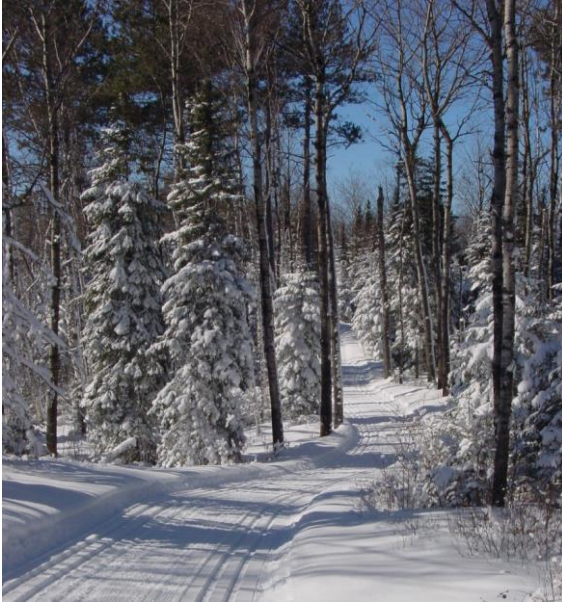
Professor Emerita, Faculty of Health,  
VID Specialized University, Oslo, Norway

[kari.glavin@vid.no](mailto:kari.glavin@vid.no)

Schaffer, Marjorie A., et al. "Twenty Years with the Public Health Intervention Wheel: Evidence for Practice." *Public Health Nursing (Boston, Mass.)*, 2021, <https://doi.org/10.1111/phn.12941>.

PHIホイールに関する質問をメールで受け付けています。ホイールのストーリーと公衆衛生看護の位置づけを聴いていただき、ありがとうございました。





*Thank you*